



2016年10月24日

各 位

株 式 会 社 I H I
 東京都江東区豊洲三丁目1番1号
 代表取締役社長 満岡 次郎
 (コード番号 7013)
 問合せ先 取締役常務執行役員 望月 幹夫
 財 務 部 長
 T E L 0 3 - 6 2 0 4 - 7 0 6 5

2017年3月期第2四半期連結累計期間及び通期業績予想、
 ならびに配当予想の修正に関するお知らせ

2016年7月29日に公表しました2017年3月期第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想、ならびに配当予想について、下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

株主、投資家をはじめとする関係者の皆さまには、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしますことを心からお詫び申し上げます。

記

1. 2017年3月期 第2四半期連結累計期間 業績予想数値の修正 (2016年4月1日～2016年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (2016年7月29日発表)	700,000	23,000	16,000	9,000	5.83円
今回修正予想 (B)	690,000	12,000	5,000	△5,000	△3.24円
増減額 (B-A)	△10,000	△11,000	△11,000	△14,000	—
増減率 (%)	△1.4	△47.8	△68.8	△155.6	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2016年3月期第2四半期)	688,271	269	△4,030	△3,907	△2.53円

2. 2017年3月期 通期業績予想数値の修正 (2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2016年7月29日発表)	1,520,000	58,000	44,000	22,000	14.25円
今回修正予想 (B)	1,500,000	38,000	18,000	0	0.00円
増減額 (B-A)	△20,000	△20,000	△26,000	△22,000	—
増減率 (%)	△1.3	△34.5	△59.1	△100.0	—
(ご参考) 前期実績 (2016年3月期)	1,539,388	22,048	9,716	1,529	0.99円

※前提為替レート 米ドル 100円 (前回見通し公表時 105円)

ユーロ 110円 (前回見通し公表時 115円)

3. 業績予想修正の理由

営業利益以下の損益見通し悪化の要因は、前提為替レートの変更（米ドル：105 円→100 円，ユーロ：115 円→110 円）の影響に加え、主として F-LNG・海洋構造物事業における以下の 3 プロジェクトのさらなる悪化によるものです。

- ① シンガポール向けドリルシップ船体建造工事
- ② ノルウェー向け洋上浮体式石油生産貯蔵積出設備（FPSO）船体建造工事
- ③ 国内向け LNG 船用 SPB タンク建造工事（4 タンク×4 隻）

これらのプロジェクトは、いずれも昨年度来当社グループの業績予想下方修正の主要因となってきた案件であり、当社グループを挙げてのサポート体制を敷き、工事の遂行に全力で当たってきました。しかし、誠に遺憾ながら、前回の業績予想発表以降、プロジェクトごとに下記の事象が新たに発現・認識されたため、それに対応する追加コストを見込みました。

① シンガポール向けドリルシップ船体建造工事

【工程現況】 ドリルシップ船体の組立て完了後、本年 4 月に当社愛知工場のドックから岸壁へ船体を移し、工程の終盤となる船内でのケーブル敷設（電装工事）・装置類の取付け（艀装工事）を進めております。

【新たに認識された課題】

- ・本年 7 月以降、船内での電装工事が進捗し、お客さまの検査を順次受ける段階となり、電装設計不適合に関するお客さまからの厳しいコメントが増加しました。
- ・これを受け、設計内容を再度精査した結果、ケーブル（電線）の再敷設やケーブルトレイ（電線の受け皿）の追加・再設置が必要になり、電装工事で大きな遅れが生じる見通しとなりました。電装工事の遅れが、塗装・試運転等の後続工程の遅延につながり、その遅れをキャッチアップするためのリソースの投入も必要になりました。
- ・こうした事情により、本年内の引渡し予定を 2017 年 3 月に変更せざるを得なくなり、大きな追加コストの計上が必要になりました。
- ・なお、お客さまと当社共同で課題を検証し、これ以上のコストと工程に影響を与える事象がないことを確認しました。

② ノルウェー向け洋上浮体式石油生産貯蔵積出設備（FPSO）船体建造工事

【工程現況】 当社愛知工場を含む国内外で製作した船体ブロックをシンガポールの下請先造船所へ輸送し、そこで本年 8 月に船体の一体化を完了しました。現在は、同造船所の岸壁に接岸された状態で、艀装・電装工事を進めています。

【新たに認識された課題】

- ・詳細設計（ヤードプラン）の図面改訂作業を本年 9 月によりやく完了しました。最終確認段階にて配管間の干渉を回避するための設計の見直しも実施しました。結果として、艀装（配管）、電装（ケーブル）工程での大幅な物量増加や、敷設済みの部分についても後戻り作業の必要性が明らかになりました。この状況を踏まえ、今後の作業量について下請先造船所とすり合わせを行った結果、引渡し予定は 2 か月遅れて 2017 年 7 月の見通しとなり、見積コストも大きく増加することになりました。
- ・また、シンガポールの下請先造船所における工事進捗の管理強化のため、設計、施工、品質管理の派遣エンジニア増員と滞在期間延長のコストを計上しました。

③ 国内向け LNG 船用 SPB タンク 建造工事 (4 タンク × 4 隻)

【**工程現況**】 建造する計 16 タンク (4 タンク × 4 隻) の内、第 1 船の最初の 2 タンクの船体搭載が本年 8 月、10 月にそれぞれ完了しました。本年 12 月に予定している第 1 船の引き渡しに向け、残る 2 タンクを順次搭載する予定です。

【**新たに認識された課題**】

- ・タンクの船体搭載とは、上部と下部、2 つの巨大ブロックをそれぞれ組み立てた後、これらを船内に搭載して一体化する工程で、難度の高い精度管理と溶接品質を必要とするアルミ SPB タンク建造における後半工程となります。
- ・この船体搭載の工程には、熟練技能者を集中的に投入して対応してきましたが、作業難度が想定を超え、後戻り作業が頻発して計画の作業効率を実現できず、また連続建造による習熟効果も得られていないことが判明しました。この結果、工程の遅れが顕著となり、キャッチアップのための対策が必要となりました。
- ・このような状況のもと、工程遅れキャッチアップのための最終ブロック組立用の作業エリアを増設することとし、また習熟効果を一切見込まずに第 1 船の 2 タンクの実績をベースに、後続のタンク建造の作業量を見直しました。この結果、見積コストは大幅に増加し、完成予定も 1~2 か月遅れて最終 4 番船の引き渡しが 2017 年 12 月となる見込みです。
- ・今後、溶接技能者の配員計画の適正化などの対策を通じて改善に努めてまいります。

現在仕掛中の上記 3 プロジェクトについては、当社グループの総力を挙げて工事を完遂する所存です。

過去の開示資料でお知らせしたとおり、昨年度からの度重なる損益悪化を受け、すでに F-LNG・海洋構造物の新規受注を停止しています。一方、アルミ SPB タンクを軸とした事業構造への変革を検討してきましたが、オフショア市場の見通しを踏まえ、抜本的な対策の必要性についても合わせて検討し、今年度末を目途に結論を出します。

4. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

	年間配当金		
	第 2 四半期	期末	年間
前 回 予 想	3 円	3 円	6 円
今 回 修 正 予 想	0 円	0 円	0 円
前期実績 (2016 年 3 月期)	3 円	0 円	3 円

(2) 修正の理由

当社は、利益配分については、安定的な配当を行うことを重視するとともに、それを可能とする経営基盤の強化のために内部留保の充実にも配慮することを基本方針としています。

しかしながら、先に述べた当期の業績予想を踏まえて、誠に遺憾ながら、第 2 四半期及び期末の剰余金の配当については、いずれも無配の予想とさせていただきます。

(注) 上記の業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上